

平成28年度 創立者古屋賞・山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞 受賞者一覧

【創立者古屋賞】

NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	創立者 古屋賞	ボルチン オレグ BOLTIN OLEG	経営情報	4	レスリング部	・全日本学生選手権大会 3度優勝(1,2年フリースタイル4年はフリースタイル、グレコローマンスタイル両スタイルで優勝 3年は怪我のため不参加) ・内閣総理大臣杯全日本大学選手権大会 個人4連覇 団体総合優勝2連覇に貢献 ・東日本学生リーグ戦 4連覇に貢献 ・フリースタイルでは四年間負けなし
2	創立者 古屋賞	タナカ ミサキ 田中 美佐稀	政治行政	4	空手道部	女子主将として自ら積極的に動き、後輩の指導をするなど模範となる学生。 社会へ対する関心も非常に高く、ゼミ活動を通してボランティア活動として地域活動へも積極的に参加するなど、責任感の強い人間である。 ・第60回全日本学生空手道選手権大会女子個人形 優勝 ・FISU第10回世界大学空手道選手権大会女子個人形 優勝

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・大学院】

NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	学術 (修士論文)	アサノ ミカ 浅野 美香	社会科学 研 究科	2	太郎良留美 ゼミ	修士論文「夫婦間における事業取引の必要経費性」—所得税法56条の現代における妥当な解釈適用とは—は、事業所得の事業主が生計を一にする親族に対し支払う報酬を必要経費に算入することを否定する所得税法56条の規定の合理性を再検討し、その適用の是非を明確にすることを試みたものである。筆者自身は、所得税法56条が創設された時代背景と、現代の個人事業を取り巻く家族の働き方、特に夫婦の働き方の状況と法趣旨が乖離しているのではないかと、という疑問を論文の出発点にした。具体的には、現代ではたとえ夫婦であったとしても、報酬の授受に必要な経費性が認められる場合があり、形式的に所得税法56条を適用すべきではないのではないかと、いうものである。論文は所得税法56条の立法趣旨を明らかにしたうえで、二つの判例を素材として所得税法56条の形式的適用に疑問を提示し、その論拠として現代の家族社会学側面および統計データから、立法当時から現代までの家族をめぐる時代背景の移り変わりを考察したところ興味深い。さらに浅野美香氏は、社会人として働きながら研究を続け、また税理士試験科目にも合格を果たしたことも評価できる点である。以上の理由により、浅野美香氏を本年度の山梨学院スチューデントオブザイヤー賞に相応しく、研究科委員会の審議決定を経て、ここに推薦する。
2	文化芸術	カロリーナ クリスティナ ステチェンスカ	社会科学 研 究科	1		女流プロ棋士2級昇格 外国人プロ棋士は将棋界史上初 甲府市「甲府大使」就任。(2016年度2月就任) ポーランドと日本の友好に貢献している。

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・大学】

NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	学術 (卒業論文)	ババキ 馬場 聖海	法	4	金子大ゼミ	当該論考は、海洋の境界画定に関する幾多の国際判例分析を基に、そこから抽出されるルールまたは原則を、わが国周辺に現存する海洋問題に適用してその解決の糸口を探ろうとするものである。確かに結論部分において、筆者の主張が幾分弱まる点が見受けられる。東シナ海には島の領有問題があつて上記原則をそのまま適用できないことが原因と思われる。しかし当該論考は、国際判例を詳細に分析するという点において極めて実証的であり、その分析により抽出される原則が非常に適切かつ精確であるという点で学究的であり、さらにこれを現実のわが国の海洋問題へ適用して解決を図ろうとする点において意欲的であるといわざるを得ない。加えて当ゼミの最近の卒業論文に比して相当量の文献を渉猟している点も見逃すことはできない。以上のような諸点を勘案すれば、当該論考は、法学科の優秀卒業論文として相応しいものと思料し、茲に謹んで推薦する次第であります。
2	学術 (卒業論文)	トバ 鳥羽 修平	政治行政	4	外川伸一ゼミ	この論文は安倍政権で導入が検討されている、働き方としての「高度プロフェッショナル制度」をめぐる議論を整理・検討したものである。この「高度プロフェッショナル制度」は一定以上の高額なサラリーをとる特殊な専門知識をもつ従業員を対象とし、彼らは残業しても雇用者は残業代を支払わなくても、合法化され」をめぐる議論を批判的に整理・検討した論文である。この制度について、審議会やその分科会などで出された資料をもとに、多大の書籍やネット資料などを縦横に使用しながら、その論点を論理的に整理しながら、論理的に議論を展開している。「はじめに」における問題意識の設定の仕方、「おわりに」での再整理の仕方もよく、註のつけかたもよい。全体とし「おわりに」での議論の再整理の仕方もよい。また膨大な註についても説得力に富んでいる。全体として秀逸な論文となっており、政治行政学科の各ゼミナールから推薦された。卒業論文のなかでも、特に優秀な論文として、委員から一致して認められたものである。日本の年功序列をはじめとする労働体系がどのように生まれてきたかについての検討がないなど等の欠点も見られるが、学生の書いた学部卒の卒業論文として、出色のものとして高く評価されたものである。
3	学術 (卒業論文)	サフト ユウ 澤戸 悠	現代ビジネス	4	伊東洋晃ゼミ	本論文は、消費者の製品選択基準という消費者行動研究の古典的テーマに対して、研究対象を、有形製品(財)と無形製品(サービス)の双方の特性を持ち、さらに、一般に購買者の購買意思決定経験も消費経験も少ない製品カテゴリーの一つ、「賃貸アパート」に設定し、独自のサーベイに基づく探索的な研究を行った。本論文は、当該領域に一定の学術的貢献をなし、かつ、学士課程の学生の研究として優れてチャレンジングなテーマである。調査分析について幅広い方法を研究し、その中からコンジョイント分析を採用した点も高く評価できる。調査設計にあたって、単に直交表の活用という技術的な側面に埋もれることなく、近接する製品カテゴリーについての既存研究のレビューと、綿密なヒアリングおよびプリテストに基づいて、調査項目や手続きを検討してきたことは、学術研究における基礎的な姿勢として評価できる。研究成果としては、一部を除いて画期的な知見をもたらすものではなかった。しかしながら、それに至るプロセスを一つひとつ自ら確認しながら進めていった研究過程は、研究と実務の礎をつくる学士課程の卒業論文執筆の意義を十分に達成するものであり、他の学生の範となるものと評価できる。論文の体裁面(形式的側面)と尺度水準の扱いに若干の瑕疵が認められるが、この論文の価値を大きく損ねるものではない。以上より、本論文を平成28年度現代ビジネス学部最優秀卒業論文とし、著者の澤戸悠を平成28年度スチューデントオブザイヤー賞学術部門に推薦する。

NO	部門	氏 名 シ メイ	学科	学年	所 属	推 薦 内 容
4	学術 (卒業論文)	ミズグチ ナオミ 水口 直美	経営情報	4	野村千佳子ゼミ	本論文「山梨県で捕獲されたシカの利活用」は、卒業論文として水準の高く、スチューデントオブザイヤー賞にふさわしい優れた論文である。当論文ではまず、全国のシカをはじめとする鳥獣被害の現状と、山梨県の被害状況とその対策として定められた山梨県の管理計画について述べている。その上で、捕獲されたシカを廃棄することなく、利活用するためにはどうすればよいのか、という問題意識の下、山梨県内におけるシカの①捕獲、②搬入、③解体、④販売・提供を3つの段階ごとに分析を行い、問題に明らかにした上で、提言を行っている。県、市町村、処理施設、ジビエ料理店等に対するインタビュー調査およびアンケート調査や、解体現場等の現地調査を積極的に行って書かれた、独創性の高い論文となっている。 よって、ここにスチューデントオブザイヤー賞(学術部門)に推薦するものである。
5	学術	ヤマダ チカ 山田 千嘉	管理栄養	4		本学生は、管理栄養士として知識・技術の向上を図るとともに、本学部での学びを深めることを目指して、これまで様々な活動や資格取得を率先して行ってきた。在学中の活動としては、山梨県産フルーツレシピコンテストへの応募、県民健康づくりシンポジウムでのポスター制作、山梨県が行っている食品表示ウォッチャーへの参加などである。特にフルーツレシピコンテストにおいては、「すももとチーズのパウンド」を製作し、「お土産部門」の優良賞の一つに選ばれた。また、山梨県との連携事業である「県民健康づくりシンポジウム」では、ポスター制作においてその力を存分に発揮し、学外からも高い評価を得た。このように、地域の課題解決のための多くの取組に積極的に参加する姿勢は、管理栄養士として県民の健康増進を推進しようとする使命感を体現していると考えられる。資格については、食品表示検定中級、HACCP管理者資格を取得している。 学業面においては、日頃から真摯な態度で地道に勉学に励み、国家試験に向けた 校内模試では常に高得点を維持している。3年次の成績は学年トップであり、その努力によって今年度エクセレント奨学生B種に認定された。学業面のみならず、謙虚で誠実な性格は教員や周囲の学生から厚い信頼を得ている。健康栄養学部4年生として、これまでの学業における研鑽を高く評価し、ここに推薦する。
6	文化芸術	リュウ ジュンウ 劉 順宇	現代ビジネス	4	囲碁将棋部	アマ本因坊戦全国5位を筆頭に、輝かしいアマチュアの戦績を残している。特に、プロ公式戦『阿含桐山杯』において三回戦進出。藤沢里菜女流本因坊に勝利した事は、鮮烈な印象を残した。山梨の囲碁界に大きな影響を与えている。近年では山梨県チームは全国最強レベルとなった。関東甲信越静岡の団体戦優勝に貢献。後輩の指導もしている。学生碁界では、学生アマ本因坊戦準優勝が最も良い成績であり少しさみしいが、劉君のおかげで、刺激を受けて日本の学生碁界は華やかになったと言える。中国・韓国を押えて世界学生選手権で日本の大関君が優勝したが、彼とはライバルである。
7	スポーツ	フジナミ ユウヒ 藤波 勇飛	法	2	レスリング部	・全日本学生選手権大会 フリースタイル70kg級優勝 ・内閣総理大臣杯全日本大学 フリースタイル70kg級優勝(2連覇) 団体総合2連覇に貢献 ・世界ジュニア選手権 フリースタイル66kg級3位 ・東日本学生リーグ戦4連覇に貢献
8	スポーツ	オマーレ ドミニク・ニヤイロ OMARE DOMINIC NYAIRO	現代ビジネス	2	陸上競技部	・第28回出雲全日本大学選抜駅伝 第6区 10, 2k 29:05 区間賞 ・第48回全日本大学駅伝 第8区 19, 7k 56:43 区間賞

9	スポーツ	オオバヤシ マサヒト 大林 昌仁	現代ビジネス	4	スケート部	・第23回全日本スピードスケート距離別選手権大会 5000m 5位 10000m 2位（これによりワールドカップ日本代表・2017ユニバーシアード冬季競技大会日本代表決定） ・2016ワールドカップスピードスケート 10000m 12位 ・日本学生氷上競技選手権 10000m 2位
10	スポーツ	アサクラ ユウキ 朝倉 祐樹	法	4	ホッケー部	・2016年度第65回全日本学生ホッケー選手権大会においてキャプテンとして優勝に貢献 また、個人的にも大会最優秀選手に選ばれた
11	スポーツ	カワムラ モトミ 河村 元美	現代ビジネス	3	ホッケー部	ホッケー日本女子代表選手として2016年リオデジャネイロオリンピックに出場
12	スポーツ	ニイソエ サキ 新添 左季	法	2	柔道部	・講道館杯全日本柔道体重別選手権大会70kg級 優勝 ・柔道グランドスラム東京大会70kg級 優勝 ・全日本ジュニア柔道体重別選手権大会70kg級 優勝
13	スポーツ	テラミ 寺見 かりん	経営情報	4	テニス部	・平成28年度全日本学生テニス選手権 5位 ・平成28年度関東学生女子テニスリーグ戦 1部6位に主力選手として貢献
14	スポーツ	スズキ ユウヤ 鈴木 湧也	現代ビジネス	4	スキー部	2017冬季アジア大会スノーボード男子回転 2位（銀メダル獲得）
15	資格	キクチ ユウキ 菊池 祐貴	経営情報	4		「情報セキュリティマネジメント試験」に今秋挑戦し、合格したことをもって本賞に推薦するものである。この資格試験においては、山梨県の学生としては、現在2名しかいない合格者の1人であり、本学唯一の合格者となっている。彼は高校生時代より動画編集などのコンピュータ技術を会得、活用しており、卒業学年となる今年度も、外部団体からその技術を見込まれ作業を依頼され、引き受けている。加えて、そのコンピュータへの知識を形にするべく資格試験への努力も継続しており、在学中に同情報処理技術者試験の「ITパスポート試験」に合格している。今回の資格合格も、その延長として挑戦したものであり、成果はその力を発揮したものである。就職先としてIT系企業に内定しており、システムエンジニアとして、得た資格の力を遺憾なく発揮し、社会へ貢献する人材である。昨今の情勢として、サイバー攻撃やサイバーインテリジェンスなどのサイバー空間における国際的な脅威が増大しており、本国におけるサイバーセキュリティ基本法の成立など、その対策を進めるのは急務となっている。また、経済産業省の外郭団体である、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が、ITに関係する全ての人に活用されるべき試験として「情報処理技術者試験」を実施、推進している。その中で、情報セキュリティに対応する技術者育成の一環として、特に、情報システムを発注、管理運営する側の人材育成を目的とした「情報セキュリティマネジメント試験」が本年度である平成28年度から実施されることになった。

16	社会活動	フォト。コンずら山梨	政治行政	3	日高昭夫ゼミ3年生	大学版地方創生事業であるCOC+の取り組みに呼応して、学生もしくは若者の目線で山梨を元気にするプロジェクトに取り組んできた。Twitter上での、「これがお気に入り」という山梨らしさを表現した写真を募集するコンテスト「フォト。コンずら山梨」を主催、実施。その過程で、コンテスト実施に必要な資金調達をクラウドファンディングで試みたが目標額に達成せず一度失敗。そこからの立ち直りと「敗者復活」への精力的な取組を行った。全員で山梨の企業回りをし、プロジェクトへの協賛を募り、資金並びに特産品（商品）提供とコンテストの審査員の依頼、現在、山梨交通、やさしい手甲府、印伝屋上原勇七、清里ミルクプラント、美郷（甲州ワインビーフの小林牧場）シャトー酒折ワイナリーなどの協賛をいただいた。協賛企業については、PRをTwitter上で行い、県内企業の事業内容やCSR活動を若者向けに発信し、県内企業への若者の就職促進の一助となっている。また、フォトコンテストでは、応募作品をゼミ生が一次選考したのち、審査員企業による最終選考を経て、賞を授与し協賛企業の提供する商品・特産品を副賞として送るする計画である。その際、協賛企業の提供する商品・特産品を副賞として送ることにより、山梨の特産品や商品の全国へのアピールを兼ねています。さらに、フォトコンテストに応募された作品集を、HPなどに掲載するとともに、フォトブックに製本して県や市町村等に配布します。それにより、山梨のよさを広く県内及び全国に発信します。
----	------	------------	------	---	-----------	---

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・短期大学】

NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	推 薦 内 容
1	学術	イマイ ユカ 今井 柚花	食物栄養	2		本学生は、「協会認定栄養士実力認定試験」において、1万人以上が受験する中で、全国4位、短大では全国1位(80点満点中76点)という極めて優秀な成績を修めたことから、山梨学院スチューデントオブザイヤー賞に推薦する。 現在、全国の養成施設3月卒業予定者や、4年制課程の3年次の者、既卒業生が受験する試験となっている。試験範囲は食品学、栄養学から解剖生理学、生化学、給食管理論などと幅広く、高得点を取るためには1年次からしっかりと学修を積み重ねる必要がある。本年度は全国で1万350名が受験し、全国の平均点は43.9点であった。本学生の取得点数76点は、偏差値では88.7であり、推薦に値すると考える。また、本学生は、日頃から各教員の研究室に何度も質問に来るなど、本試験に限らず、短期大学における学修に非常に意欲的に取り組んできた。青木ゼミにおける卒業演習の一環として行った「高齢者ソフト食」のレシピ作成では、グループ内で中心的役割を担った。これらのことから、本学生は、他の学生らにとっても大変模範となる生徒といえるため、スチューデントオブザイヤー賞受賞者としてふさわしいと考え、ここに推薦する次第である。
2	学術	ワタナベ コウスケ 渡邊 弘典	食物栄養	2		本学生は、栄養士としての業務に関連した資格である「食品表示検定 初級」において優秀な成績をあげた。「第13回食品表示検定初級」の試験において高得点の92点を獲得した。この試験は全国で2,956人が受験し100点満点で全国平均は72.5点であり70点以上が合格で合格者は1,679人(合格率60.5%)であった。本学生の92点は合格を大幅に超えており、本試験を上位で合格した。平成28年度のレストランサービス技能検定3級にも意欲的に望み合格を果たした。ゼミでの研究テーマ「特産品のPRと食育への関心度に関する研究」と題し山梨県の特産品である甲斐サマーモンレッド、米粉、ヤーコン等をレシピ集にまとめ本学HPのレシピ集欄で発信した。その一つ米粉関連の活動に積極的に取り組んでおり平成28年の「コメ・米粉レシピコンテスト」においてゼミ長とし学生をまとめ応募した。全国から1,200以上の応募の中で「佳作」を受賞した。本学のHPなどからも地産地消・地域貢献の面から米粉の特性や調理法を十分に理解したものとし主催者から山梨学院短期大学へ感謝状が授与された。本学生は、研究に情熱を持ち、試行錯誤の中から、前向きに取り組んだ結果だったといえる。ゼミでは、「特産品を用いた西洋料理と関心度に関する研究」とし卒業研究を行った。本研究は、産官学連携として地産地消と社会貢献へと結びつける活動であり、主体的・積極的な取り組みであり意欲的に向上心を持って行った姿が印象的であった。更に本学の公開講座などへの興味・関心が高く2年間6回に渡り、食育ボランティアの中心的学生リーダーとしてまとめた。学業面のみならず、謙虚で誠実な性格は教員や学生から厚い信頼を受けている。

3	団体活動	食物栄養科 フードクリエイトコース 2年生	食物栄養	2	フードクリエイトコース	フードクリエイトコース2年生は、以下の特筆すべき活動において食物栄養科学生として大変価値あるものである。スチューデント オブ ザ イヤー・その他の分野(団体活動)に推薦する。1. フードクリエイトコース2年生31名は、大学現代ビジネス学部伊東ゼミナールと協働で、学生チャレンジ制度助成事業として山梨魅力パンの商品開発を行い、樹徳祭での試験販売を経て、県内製パン 5店舗での販売に繋げた。12月12日からの県内有名製パン5店舗での販売でも順調に売り上げを伸ばしている。各店舗の販売は当初一週間の予定だったが、好評につき、1月31日 現在、4店舗が通常販売を継続。この4店舗のうち、3店舗は3月までの継続予定うち1店舗は通常販売品として通年販売すると聞いている。製菓(製パン) 技術もさることながら、消費者に喜ばれる商品開発にも、二年間フードクリエイト コースで学んだことを十二分に発揮し、地域に貢献したと評価される。2. 山梨ケーキショー2016では、ジュニア銅賞1名と菓子メーカー賞3名が入賞し、高い 製菓技術の評価された。3. 製菓衛生師国家試験では、28名が受験し、26名が合格した。合格率92.9%、資格取 得者26名はフードクリエイトコース開設以来、最も高い記録となった。4. レストランサービス技能検定3級国家資格では、食物栄養科13名が受験し、初めて受 験者全員が合格し、合格率100%を達成した。なお、13名中フードクリエイトコースの 7名が製菓衛生師資格とのダブルライセンス取得となった。5. 本学の大学教育再生加速プログラム・PROPERTIES事業において、他に先駆けて行った 専門的実践力外部試験で製作した作品について、外部審査委員から高評価(A29名、B2名)を得た。
4	社会活動	サマーキャンプ 栄養スタッフ班 (笠井優 金丸悠子 横打倫子)	食物栄養		栄養士コース	第31回「やまびこの会」主催による1型糖尿病サマーキャンプ(8月7日から11日の4泊5日)が、ゆずりはら青少年自然の里で行われた。横打さんをリーダーとする笠井さん、金丸さん達学院短期大学2年生3名は、健康栄養学部生(16名)、東京家政学院大学生(5名)、文教大学生(7名)、学院短期大学生(4名)からなる栄養スタッフの中心メンバーとして活動した。栄養スタッフが行った「食事調査、夜食の内容検討と準備・提供、野外炊事の献立検討と実施」を他の学生とキャンプで行った。夜食と野外炊事では、3名が献立の検討から事前に試作を何回も繰り返し、当日の実施に結びつけた。また、キャンプ中の栄養スタッフの学生達をまとめ、積極的にボランティア活動に取り組み、サマーキャンプの成功に貢献した。 なお、この結果はゼミを代表して、卒業レポート発表会で報告することになっている。また、山梨県栄養士会主催による山梨県栄養学術研究会でポスターによる発表を予定している。これら学生としての優れた資質は、スチューデント・オブ・ザ・イヤー賞にふさわしい学生達であると考えられることから、社会活動部門に3名をグループとして推薦する。
5	社会活動	サノユキ 佐野由貴	保育科 保育専攻		チアリーダー部	保育専攻科学生として学業に励みながらも、年間を通じ、【地域貢献】県内スポーツ応援、福祉施設、幼稚園・小学校訪問ボランティア等の活動をはじめ、【山梨学院応援部】として、リオオリンピック壮行会や全日本駅伝・箱根駅伝のカレッジスポーツ応援活動に鋭意取り組んだ。また、山梨学院の【関連学校行事】である山梨学院幼稚園運動会や小学校スポーツフェスティバル・オクトーバーフェスティバルにて子ども達を対象としたチアリーダーパフォーマンス披露やサポート活動を行い貢献した。 特に、山梨学院創立70周年記念ステージ行事においては、保育専攻科学生として日々培われた支援・援助力を発揮し、関連学校(幼・小・中・高・大)による100名以上の合同パフォーマンスを中心となりまとめた。華やかな舞台の裏でもチアリーダー代表として、保育・教育を真摯に学び、取り組んだ姿は高く評価できる。よって、佐野由貴をスチューデントオブザイヤー賞に推薦する。